

行政評価シート(事後評価)

コード 6-3-4	事務事業名 休日・夜間開館対応事業	所管部課 子育て支援部児童青少年課
--------------	----------------------	----------------------

事務事業の概要	事務事業の目的		根拠法令等
	地域の中学・高校生年代を対象とした居場所づくりや、乳幼児親子等の子育て支援の場の提供など、安全で安心な遊び場・居場所の拡大を図る。		<input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等 / 補助の概要: 補助団体の概要 (団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要 (国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額) 等		
	休日開館は、下保谷・田無柳沢・田無・中町児童館で実施している(日曜日 9:30~17:00)。 夜間開館は、下保谷・田無柳沢・田無児童館で中学・高校生年代を対象に実施している(月・水・金曜日 18:00~21:00)。 上記事業は民間事業者へ業務委託を行っている。		
事業開始時期	16 年度	実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業費データ	項目	単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	事業費(A)			5,749	7,119	8,127
財源	国庫支出金・都支出金	千円				
	地方債					
内訳	その他()					
	一般財源		5,749	7,119	8,127	8,851
所要人員(B)		人	0.45	0.45	0.45	0.45
人件費(C)=平均給与×(B)		千円	3,683	3,672	3,672	3,672
臨時職員等賃金(C')		千円				
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')		千円	9,432	10,791	11,799	12,523
単位当たりコスト						
(E)=(D)/(利用者数)		千円	1.08	1.22	1.32	#DIV/0!

評価指標の設定	活動等指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	実施施設数	実績値	事業	2	3	4	5
	実績値						
(指標の説明・数値変化の理由 など)							
評価指標の設定	成果指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	一 次 利用者数	目標値	人				
実績値		人	8,763	8,819	8,933		
二 次 アンケート	目標値						
	実績値						
(指標の説明・数値変化の理由 など)							

事業環境等	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	特になし	
	都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	<input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下	休日開館は26市中6市で、夜間開館は26市中8市で実施している。
	代替・類似サービスの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	特になし

コード 6-3-4	事務事業名 休日・夜間開館対応事業	所管部課 子育て支援部児童青少年課
--------------	----------------------	----------------------

【一次評価】

検証項目	ランク		一次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
事業の優先度(緊急性)	2		<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>休日開館は、乳幼児親子や小学生などの安全な遊び場として需要が多い。 夜間開館は、現在は特定の年長児童の利用が多いが、今後建替えにより、中学・高校生年代対応に重点を置いた機能・施設を予定している下保谷・ひばりが丘児童館や大規模改修により中学・高校生年代対応の充実を図る児童館を整備し、地域ブロック単位で思春期の児童への相談支援や居場所確保を図っていく。</p>
事業の必要性	3			
事業主体の妥当性	3			
直接のサービスの相手方	2			
事業内容等の適切さ	1			
受益者負担の適切さ	3			
市民ニーズの把握	2			

【二次評価】

検証項目	ランク		二次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
事業の優先度(緊急性)	2		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>本事業は、中学・高校生を対象とした居場所づくりや場の提供、乳幼児の保護者の子育て支援など、社会情勢の変化の中で求められるニーズとして大きくなってきている。毎年度実施施設数は増加しており、あわせて利用者数も増加しているが、施設数の増加の割合に対しては利用者数が伸びていない。 今後は、児童館のあり方等を検討する中で、休日・夜間開館のあり方についても明確にする必要があると思われる。 また、検討にあたっては、利用者の意見等を把握し、ニーズにあった条件整備等を検討されたい。</p>
事業の必要性	2			
事業主体の妥当性	2			
直接のサービスの相手方	1			
事業内容等の適切さ	1			
受益者負担の適切さ	2			
市民ニーズの把握	1			

【行革本部評価】

行革本部評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>現在の社会情勢を踏まえると、休日や夜間にも児童館を開館することは、社会的要請があるものといえる。一方、休日・夜間開館を実施している施設数は毎年度増加しているが、利用者数は微増にとどまっており、費用対効果の点で課題がある。今後は、児童館のあり方等を検討する中で、利用者の意見・要望等も踏まえながら、より事業効果や効率性の高い休日・夜間開館のあり方について見直しを図られたい。</p>